

『ベーター麻機』

— 地域との連携、地域との共存、そして誰もが生涯にわたり安心して安全に暮らせる地域づくりを目指す —

麻機遊水地

昭和49年7月に発生した七夕豪雨を契機に遊水地等が整備され、流域の治水効果を高めています。

また、遊水地整備に伴い多くの動植物が生育・生息する湿地環境が形成されました。そのため、人と自然との良好な関わりを取り戻し、麻機固有の動植物の保全と再生を進めていきます。



麻機遊水地



ミスアオイ (VU)

病院・福祉施設

遊水地周辺には、静岡てんかん・神経医療センターやこども病院等が隣接しており、遊水地を患者さんのリハビリやリラクゼーションの場として活用していきます。



静岡てんかん・神経医療センター

学校

遊水地は、子供たちの環境学習の場としても活用され、身近に触れ合うことのできる貴重な自然環境となっています。また、遊水地に隣接する特別支援学校の障害を持った生徒にとっては、様々な活動を通じて生徒の職業訓練、社会参加を通して生徒の自立を目指します。



外来種駆除



北支援学校との協働作業

商業・その他施設

遊水地周辺には、流通センター等の商業施設が隣接しており、遊水地の価値を高める事で商業施設の活性化を図っています。



静岡流通センター

また、遊水地の自然環境保全や利活用においては、民間活力の活用も必用となっています。そのため、相互に連携することにより、地域の環境保全、地域の活性化を進めていきます。

ベーター麻機では、障害者や高齢者が安心して安全に暮らすことができるように、麻機遊水地の特性や自然環境を活用して、地域と障害者や高齢者との連携、農業、医療、福祉を通じて障害者の職業訓練、自立支援の場として活用し「施しより仕事を」実現していくことを目指します。

	麻機遊水地
	病院・福祉施設
	学校
	商業・その他施設
	住宅地
	農地
	歴史・文化施設

位置図



対象箇所

<対象箇所>
麻機遊水地を中心とした半径2km程度の地域と、それに隣接する第1工区北側の住宅地、山林を含む。

農地・山林

遊水地周辺の平地部は水田や蓮田、山の斜面部は茶畑やミカン畑として活用され、市街地に隣接した貴重な里地山環境を有しています。しかし、高齢化や後継者不足等により荒廃農地や放置竹林が増加しています。そのため周辺農地の保全や里山の再生、遊水地を活用した農業を展開し、これらの活動を医療や福祉、自然再生の面で活用するとともに、障害者の雇用を進めていきます。



周辺の蓮田



周辺の水田

歴史・文化

第3工区やその周辺部には、かつては浅畑沼を代表とする沼地が散在しており、現在も伝統的漁法の柴あげ漁の再現が行われています。また、浅畑沼にまつわる「沼のばあさん」の伝説も残されており、諏訪神社には「沼のばあさん」が祀られています。そういったことから、遊水地を地域の歴史・文化の継承の場として活用していきます。



柴あげ漁



諏訪神社

住宅地

第1工区の北側の住宅地では、高齢者の増加や住宅の空き家の増加などが心配されている。そのため、遊水地を中心に地域を活性化し、この地域ににぎわいを呼び戻すとともに、高齢者の憩い、交流の場として遊水地を活用していきます。

※1. 第1工区北側の人口：約9,000人 ※2. 病院の患者、職員数：約2,000人/日 ※3. 特別支援学校の生徒、職員数：約900人

2. ベーテル麻機（治水・医療・福祉・教育・農業との連携）構想

■「自然再生とほっと一息ひだまり共存ゾーン（病院東側エリア部分）」

ベーテル麻機では、障害者や高齢者が安全で安心して暮らすことができるように、麻機遊水地の特性や自然環境を活用して地域と障害者や高齢者との連携、農業を通じて健康増進、障害者の職業訓練、自立支援の場として活用するための計画を検討、実施するものです。

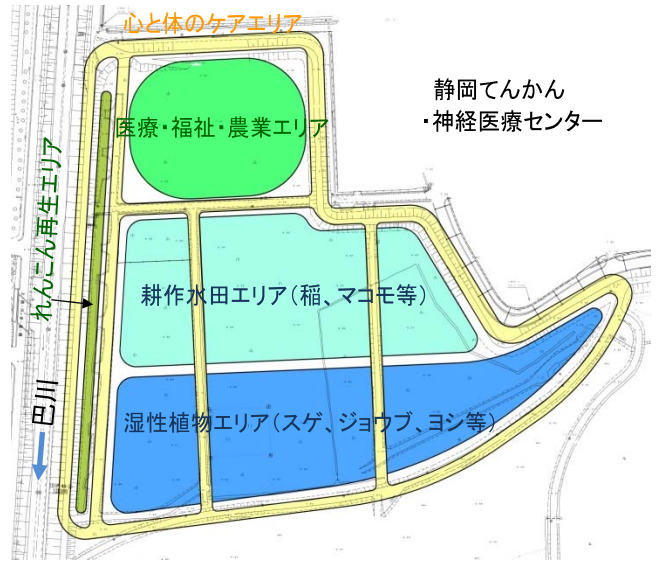
これまでの河川整備は、「治水」、「利水」、「環境」の総合的な整備を通じて流域住民の安全を守るために整備が進められてきました。

しかし、少子高齢化や社会様式等の変化とともに市民の川に対する要求も転換し、「癒しや心的ストレス改善」などの生命に関わる機能、「景観、教育、レクリエーション」などの文化に関わる機能も求められるようになりました。

河川空間を利用した、医療の取り組み実施事例では、病室から空を見ながら治療するだけでなく、自然や生きものと触れ合う事の効果により、自らの治癒機能の向上や、生きる意思、生きがいの高揚などを期待することができます。

また、福祉の分野では、障害者の職業訓練の場、地域コミュニティの連携の場としての活用が期待されています。

このエリアは、病院や学校、福祉施設等にも隣接しており、自然再生事業と関連付けながら、隣接する施設、社会福祉協会等や、医療福祉関連企業、農業関連企業とも連携を図りながら、遊水地の空間を地域で高度利用していくことを目指します。



<この区域の活用イメージとその効果>

これまでの各分野で区切られていたが、遊水地を拠点として相互に複合できる

治水

市民に利用、活用してもらう事で、治水容量の確保、治水施設の維持管理が低減されるとともに、遊水地の環境保全が図られます。

医療

隣接する医療施設利用者の憩い、コミュニティの場を創出します。また、治療やリハビリの場としての活用が図られます。

福祉

隣接する福祉施設や高齢者のための散策路や畑等を整備することで、散策や作業等により健康増進、地域との交流の場が創出されます。

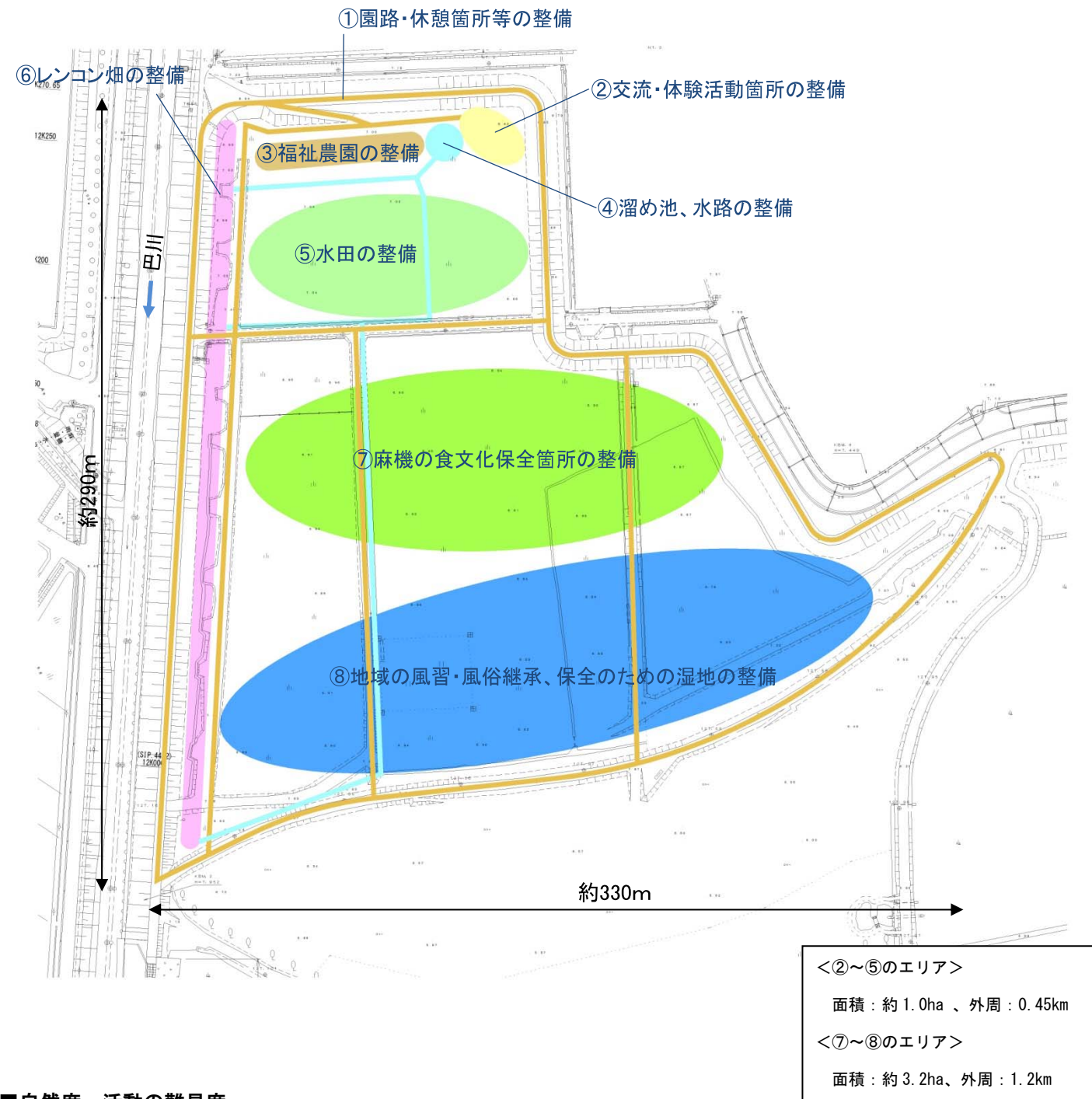
教育

静岡北特別支援学校、中央特別支援学校の職業訓練の場、麻機小学校や観山中学校の環境教育の場が創出されます。

農業

れんこんなど、麻機地域の農業継承、将来の地域の農業を担う人材の育成の場が創出されます。

3. 「人と自然との持続的な関わり作りの会」検討、整備概要図



<遊水地の高度利用とその効果>

①園路・休憩箇所等の整備

障害者や高齢者のためにバリアフリーに配慮した散策路の整備や、誰でも気軽に日常的に土や花と触れ合う事ができるような花壇を設置し、リハビリ、健康福祉、医療面でのウォーキング、身近な自然とのふれあいにより、生活習慣病の予防や心のケアに活かします。また、休憩施設や看板等を設置し、地域交流の場、巴川流域の総合治水に関するPR、麻機遊水地の自然環境のPRの場としても活用します。

②交流・体験活動箇所の整備

活動する方の休憩の場、除草した草の堆肥化、カブトムシの生息・産卵場の整備や、ヤギを利用した除草等を実施します。

③福祉農園の整備

高齢者や障害者、就労継続支援事業者、授産所施設等の方などの農作業、やすらぎ、交流の場として活用します。さらには、生産した農作物等は隣接する病院や福祉施設に新鮮な食材として提供するとともに、農作業と関連した環境保全を進めます。

④溜め池、水路の活用

水源確保のための溜池、水路を整備するとともに、道具の洗い場、水生昆虫や、ドジョウやメダカなどの生息の場を再生します。

⑤水田の整備

水田を整備し、支援学校の生徒の職業訓練の場、農業従事者、地域社会との交流の場として活用します。また、隣接する小中学校の農業体験、環境学習の場として活用するとともに、水田を生育の場としている希少な植物、ホタルやトノサマガエル等、昔はこの田んぼでも見られた動植物の保全を行い、心安らく昔懐かしい田園風景を創出します。

⑥レンコン畑の整備

地域の特産となっているレンコン栽培や、蓮田の整備を行い、地域の特産物のPR、蓮田と関連性した動植物の保全を進めます。

⑦麻機の食文化保全箇所の整備

マコモやヒシなど、以前は食材としても利用されていた植物を保全します。さらには、高齢者との交流により、地域に伝わる食文化の継承、体験の場として活用します。

⑧地域の風習・風俗継承、保全のための湿地の整備

神社等の輪くぐりで使用される茅（チガヤ、スゲ、ススキ）や、スゲガサの材料となるスゲなどの植物を保全します。さらには、これらの風習・風俗を保全、継承、体験する場として活用します。

※②～⑧は、麻機の農村をイメージし整備していきます。